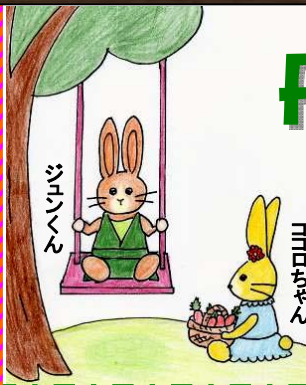




丹後地域 リハビリ通信

第6号

～うさぎのブランコ～

編集／発行

丹後地域リハビリテーション支援センター
 (京丹後市立弥栄病院 リハビリテーション科内)
 〒627-0111 京丹後市弥栄町溝谷 3452-1
 TEL&FAX. 0772-65-2018
www5.nkansai.ne.jp/off/tangosien

<事務局>

京都府丹後保健所 (丹後広域振興局健康福祉部)
 〒627-8570 京丹後市峰山町丹波 855
 TEL 0772-62-4312 FAX 0772-62-4368
www.pref.kyoto.jp/tango/ho-tango

進みましたか？ 広がりましたか？ 顔の見える関係づくり

丹後地域リハビリテーション支援センターの平成 22 年度事業が終わりました。皆様の現場では、業務改善は進みましたか？あるいは、利用者様や患者様を通じて関係者同士の連携は進みましたか？

地域リハビリテーション支援センターでは、事例検討会やお気軽サミットなどの事業をつながりづくりのきっかけにして欲しいと考えています。

相手のことがわからないと不満や不安が大きくなるものです。ぜひ、担当する利用者様や患者様の顔を思い浮かべて、今まで連携をとる機会のなかった相手ともつながりましょう。

事例検討会 報告

<日時・会場>平成 23 年 1 月 14 日 (金) 野田川わーくぱる

<内容>「**パーキンソン病並びにレビー小体型認知症**」

講師：神経内科医師 竹村 学 先生

事例報告者：天橋立訪問看護ステーション

梅田美枝子 看護師、曾根佳子 理学療法士

竹村先生から「レビー小体型認知症の臨床像」「パーキンソン病の病態」「レビー小体型とアルツハイマー型の認知症の比較」「レビー小体型認知症の症状、治療」などについて講義をいただき、天橋立訪問看護ステーションから各種サービスを活用しながら在宅介護をされている方の関わりについて、丁寧にわかりやすく報告いただきました。参加者から「最近よく耳にするレビー小体型認知症を学べて良かった！」とのお声が数多く寄せられました。(参加者 85 名)

質疑応答から

- ありありとした幻覚を訴えられた場合の対応を教えてください。

幻視は否定しない方がよいのか。ながすように接するのがよいのか。→ケースバイケースだが、基本的に否定すべきでない。否定されると患者は不安になるので、「この病気はそういう病気なんですよ」とか、「〇〇がいるんですね」と話を合わせるなど、気持ちを反復して共有するのがよい。



今年度の参加者は過去最高！

2011お気軽サミットin丹後

<<開催報告>>

2008 年から始まったお気軽サミットは、「お気軽」がキーワードの実践交流会です。今年のお気軽サミットは、転倒予防アドバイザーやサロン活動の実践者などの介護予防に係わる推進者にも57名御参加いただき、総勢 189 名の参加を得て、大にぎわいでした。

講演では京都大学から整形外科医師の青山朋樹先生と、宮津市出身の森周平理学療法士さんをお迎えし、「今日から始める転倒予防！～誰でもどこでも行える体操の紹介～」と題してのお話の後、京都大学で考案された「ステッププラス」をみんなでやってみました。



京都大学 青山準教授

高齢者の活動性は筋力強化訓練だけで向上するわけではなく、運動能力が高い高齢者でも転倒します。しかも、転倒が多いのは寝室や居室など、普通はこけそうにないところでおこっています。
「足を上げているつもりであがっていなかった」
「見ているつもりで見えていなかった」ことが原因なのです。
日常生活の中では 2 つ以上のことを同時にしていることが常なので、転倒を予防するには 2 つの事を一緒に出来る能力（二重課題処理能力）をつけることが重要です。



「ステッププラス」はアタマもカラダも同時に強化するトレーニング方法です。左図のように、椅子に座って足踏みをしながら動物や野菜の種類をなるべく多く上げたり、ステップしながら、リーダーの指示によって前後左右に移動します。



さあ、皆さんも一緒にやってみましょう！
（森理学療法士さんの声かけで会場でも挑戦！）

お気軽サミットに参加のみんなでやってみました。

「前・後・右・左」のかけ声とは逆の方向に動く運動では、個々人で行うと四苦八苦していましたが、おおきな輪になって手をつなぎながら行くと、参加者は自然発生的に声を出して動いていました！ 仲間意識ってスゴイ！！

これはレクレーションにも使えます。現場でもお試しを。



実践報告

お気軽サミットでは、普段工夫され実践されている活動を発表していただきました。

今回は地域での介護予防実践をしておられるサロン活動として“小浜健康一家”からもお話を聞き、会場の皆さんと転倒予防お達人体操をしました。

介護保険の現場は特別養護老人ホーム、通所リハビリテーション事業所、小規模多機能型居宅介護事業所から報告をいただきました。



おおみや苑 伊藤さん/今田さん



久美浜病院 安達さん



おきなぎの家 白敷さん

展示&相談コーナー

地域リハビリテーションは地域の中でいろんな形で実践されていますので、日頃の活動や成果物を展示していただきました。

参加者からは「我が施設でもやってみたいな」「サンプルや資料をもらえてよかった」等のお声もあり、とても好評でした。



お口の健康コーナー
丹後保健所



介護のお悩み解決ビデオ
生活リハビリ道場



転倒予防の福祉用具
ケア・すぎけん



自宅開放サロン
アットホーム



介護予防デイサービス
天橋の郷



認知症対応型デイサービス
介護ハウスうえもり

京都府総合リハビリテーション推進プラン が策定されました

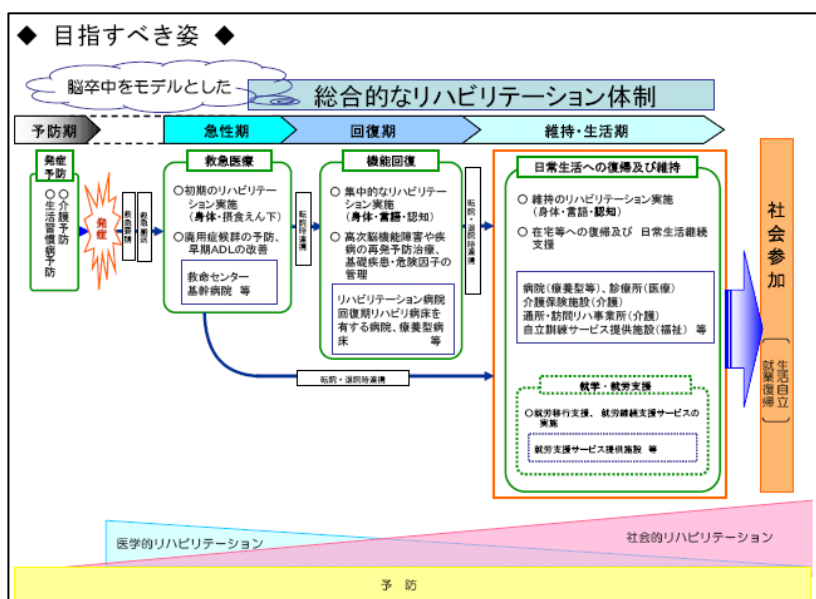
これまで地域のリハビリテーション体制の充実に向けて、京都府では京都府立医科大学附属病院内に府リハビリテーション支援センターを、各二次医療圏毎に地域リハビリテーション支援センターを設置し、地域での連携体制の構築や人材育成に向けた各種の取組をしてきました。

リハビリテーション支援体制は徐々に整いつつありますが、更に充実した総合的なリハビリテーション体制を進めるために、このほど京都府総合リハビリテーション推進プランが策定されました。

患者の状態に応じた適切なリハビリテーションが府内全域において提供できる総合的なリハビリテーション提供体制の整備に向けて、人材の育成や連携体制のシステム化など、これまでの体制の更なる充実に向けて動き出します。

詳しくは下記のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.kyoto.jp/kenzou/1279109201036.html>



うさぎの小窓

編集者から皆様へ

平成 23 年 3 月 11 日に東北関東大震災がおきました。連日テレビや新聞で報道される惨状に胸が痛みます。そんな中でも、医療や介護の現場では、患者さんや利用者さんを守ろうと力を尽くしている仲間の姿が映し出されています。いつもと違う状況だと不穏になる方に、少しでも安心感を与えようとする優しい声かけと、心くばり。

言葉の力、スタッフの表情や口調が与えるパワーはすごいと思います。そして、日頃からの人と人の関係性も癒される要素だとつくづく思います。

東北関東の震災の影響は、これから各地にもやってくると思いますが、みんなで手を携えて乗り越えられることを信じています。